

クシュナー氏イスラエル訪問、ハリケーン etc

今日の預言アップデートで、何を話すべきか主に祈り求めていたら、示されたのが、「現在世界中で起こっている事が、どれほど深刻な状態であるか」という事です。地政治的に起こっている事の深刻さ、特にイスラエルに関してです。それと、アメリカも付け加えておきます。それはまるで、これ以上現在の状態ではいられないところまで来ているように思えます。私には、もう折れるしかないように思えます。それも、遠い将来でなく比較的近いうちに。通常、私はあまり小道具は使わないのですが、今日は一つ持ってきました。輪ゴムです。この輪ゴムを使って、ある描写をお見せしたいと思います。輪ゴムに力を加えて、引っ張り続けると、切れてしまうのは時間の問題です。これが、現在の世界の状態だと私は見えています。これが切れてしまうのは、時間の問題で、このまま引っ張り続ける事は出来ません。引っ張った状態のまま放置したとしても、いずれ切れて、ばらばらになり破壊するでしょう。

まずは、このエルサレムポストの、ジェラルド・クシュナー氏が、ベニヤミン・ネタニヤフと対談した記事からです。記事によると、異なる側面があるようです。トランプ大統領の娘婿である上級顧問が、木曜日テルアビブでネタニヤフ首相と対談し、次のように発言しました。

——「アメリカとイスラエルとの結びつきは、未だかつて無かったほど強いものだ。」——

次に面白いと思ったのは、ネタニヤフ側からでたこの反応です。彼はこう答えました。

——「地域の平和と安定、安全、発展を、いかにして向上させるかを含めて、話すことがたくさんある。」——

とても興味深いですね。

ところで、とても良い機会なので、クシュナーのイスラエル訪問と、ハリケーンハービーを結び付けて語っている方々に言っておきます。これに関して、私自身も、とても慎重に扱わなければならないと思っています。これに関して、軽くあしらっているようには取られたくありませんから。私も以前に、聖書預言アップデートの中で、アメリカ合衆国で起こった大惨事の、点と点を結び合わせて語った事がありますから。ジョージ・W・ブッシュが大統領だった時には特にです。彼らがイスラエルに圧力をかけると、必ず恐ろしい事が起こりました。なので、これもタイミング的には怪しいとも言えるかもしれません。この、イスラエル訪問の性質からして、また、その結果に関する秘密主義的な面からしても。そこで、自分でも調べてみたのです。繰り返しますが、これに関して、軽くあしらうつもりはありません。ただ、この点と点の繋がりについて、自問する内、私が至った答えは次の通りです。どうかよく聞いてください。

オバマが大統領だった8年の間には、何故、大惨事が一度も起こらなかったのか？私が間違っていたら、どうぞ指摘してください。でも、アメリカ国内での大惨事の記憶が、私には無いのです。しかも、オバマは大変な反イスラエル派であった事は確実です。あの、イランとの核協議の時などは、人類史上最悪のハリケーンが起こるはずだと思いませんでしたか？しかし、起こりませんでした。私にとって、もう一つ問題があります。これは、私個人の問題であって、否定的になるつもりはありません。それが

メリットになる可能性もあるでしょうし。それでも、これに関して私が引っかかっている、もう一つの理由は、被害を受けた中心地に、クリスチャン達がいるのです。彼らの為に、祈らなければならないのはもちろんの事、援助活動をして支援しなければなりません。私達は、フランクリン・グラハムのミニストーリーである、サマリタズパースを支援しています。それから、カルバリーチャペル アソシエーションからもEメールが届き、大被害を受けた地域に、カルバリーチャペルがあるとの事。ですので現在、私達は、そこに居る彼らへの支援物資をまとめています。

つまり何が言いたいのかというと、もし、これが神の裁きであるなら、神は、正しいものを悪い者と一緒に裁かれる事になる。ちょうど創世記で敬意をもってアブラハムを見ていたのですが、アブラハムは、ソドム、ゴモラに住んでいたその甥ロトに代わって、神に懇願したのです。彼は神に言いました。

「神様。あなたは、正しい者を悪い者と一緒に裁くような事はなさいませんか？」

「もし、そこの50人の正しい者が見つければ、どうでしょうか？」

そう言って彼は、数字を下げて行きましたが、ソドムには、正しい人がたった10人も居なかったのです。そこで、神は何をなされたか？主は、裁きを下される前に、文字通り、彼らの手をつかんで（創世記19:16）、彼らを引きずり出したのです。創世記19章に書かれていますから、皆さんも読んでください。1つとして硫黄の火が降る前に、です。ちなみにこれは、患難前携挙の描写ですよ。教会の携挙、神がその民を連れ去られるのです。破滅が襲う前、輪ゴムが切れる前に、です。

さて、それが木曜日でした。その翌日、Breitbartが報道したのは、パレスチナ自治政府は、ジャレッド・クシュナーがラマラを訪れた時に、「最終通告」を告げる計画をしていたらしい。その最終通告とは、

「45日以内に、イスラエルの敗北宣言をしろ。さもないと、和平プロセスは破棄にして国連に行く。」時間が無いので引用はしませんが、記事には、現在流れが変わってきていると伝えていて、それは主に、トランプがアメリカ大使館の、テルアビブからエルサレムへの移動を、延期させたためであり、それが、パレスチナが、引き続きやりたい放題するように増長させたとのこと。一部ですが、記事を引用したいと思います。

——大使館の移動はまだなされていないが、それも一時的な事で、トランプが、遅らせた事に対して、何かを差し出すどころか、アメリカの税金を使って、テロリストの家族に、今後も資金を与え続けると宣誓したパレスチナに譲歩しての事だ。——

ところで、これはご存知でしたか？アメリカの税金が、いわゆる“パレスチナ人”に渡っているのです。彼らは、パレスチナ人ではありませんよ。彼らはアラブ人です。パレスチナ人なんてものは、ありませんから。パレスチナ解放機構の創設者、アラファトはエジプト人です。彼は、パレスチナ人ではありません。パレスチナ人なんてものは無いのです。私は子供の頃、自分はパレスチナ人だと言われて育ちましたが、そんなものはありません。私はパレスチナ人ではなく、アラブ人です。つまり、私達は彼らにお金を与え、彼らは、テロリストにお金を払っているのです。彼らは一生安泰。ユダヤ人を殺し、自殺するテロリストの家族は、一生安泰。彼らは、家族に褒美を与え、一生涯経済的な見返りを与え続けるのです。それも、かなりの額です。これが、この譲歩の代わりにトランプが、我々が受け取ったものです。

——トランプは、平和協議のゴールを最優先し、彼の前の政権が行ったのと同様、またもや交換条件を出し、ただ参加する事、それと平和的対話をパレスチナに求める事を示唆。——

彼らは、ユダヤ人との平和なんて求めていません。彼らは、ユダヤ人の破滅を望んでいるのです。そして大事なものはこれです。

——クシュナーの訪問に先駆けた今週初めに、トランプ政権を攻撃した、パレスチナ大統領マフムード・アッバースは、（これは興味深いです。）アメリカのメディアの大統領に対する態度と、民主党の一部の共和党員の間で蔓延する「トランプは、長くは続かないだろう。」という考えによって、さらに増長し、——

この輪ゴムは、どれくらい耐えられるでしょう？

前にもお話ししましたが、この間、私がニューヨークに行った時、タクシーの運転手がイスラム教徒で、色々話をしたのです。あれは、面白い会話でした。私の息子が、「お父さん、うまく対応したね。」と言いましたが、どういう意味かということ、私は、彼に“パレスチナ”を突き付けなかったのです。そこで、何を話したかと言えば、トランプについてです。ニューヨークに居たのですから、当然ですよね。そこで彼は、こんな風に言ったのです。「私達、ニューヨークの人達は、トランプ大統領が長続きするとは思っていない。」もう、あとは切れるしかないですよ？彼が、弾劾とか暗殺とか何かを言ったかどうかは分かりませんが。

他に良い言い方が見つかりませんが、アメリカ国内、特にメディアの中で、そのような趣があります。これが、いわゆる“パレスチナ”を増長させている事を、皆さん理解しなければなりません。「アメリカ人は、トランプに敵対しているんだ。だから我々は、やりたい放題しても大丈夫だ。何でも望むところを要求しても大丈夫だ。」彼らはそう言って、そして、彼らが出した譲歩の一つが、大使館移動の延期です。

それはともかくとして、クシュナーのネタニヤフとの対談に加えて、ネタニヤフはプーチンとも対談しました。ちなみに、すべて現在進行形です。残念ながら、ここアメリカではあまり報道されていませんが。タイムズオブイスラエルによると、ネタニヤフ首相は、ロシアの大統領にこう告げました。

——「継続するイラン軍のシリア在留を防ぐために、イスラエルは行動に出る意思がある。」これは、ロシアのトロピカル地帯、黒海のリゾート地ソチで行われた、両指導者による、3時間の会談の中での事だ。ネタニヤフは、会談の後、イスラエルのジャーナリストに電話で「“レッドライン”が越された時には、イスラエルは行動に出る。我々は自分たちのレッドラインに従って、必要な措置を取る。」とプーチンに伝えたことを明かした。「過去、我々はこれを許可を得ることなく行ってきたが、我々の政策について、改めてお伝えしました。」——

訳すと、「警告はした。」「我々は警告した。」「レッドラインを超すな。」「これまで、十分に我々を引っ張ってきたんだ。次は切れるぞ。」ところで、明らかにネタニヤフにとっての“レッドライン”と、バラク・フセイン・オバマの“レッドライン”とは、同義語ではありません。彼らが“レッドライン”という時、それは“レッドライン”です。勘違いしてはいけません。ここからどこへ向かうか、お分かりですね？

シリアに関して、イスラエルがロシアに与えた警告は、イランには破られたようで、イランは、「イスラエルは25年後は存在していない。」と警告しました。25年とは、結構寛大ですよ。もっと少ないかと思っていましたが。昨日、Arutz Shavaが報道したところによると、イラン軍のアブダル・ラヒム・ムサビ少佐が「イスラエルのシオニスト政権は、25年後には存在していないだろう。」と発言。皆さん、理解しておいてください。彼らは、「イスラエルに死を！アメリカに死を！」と唱えているのです。イスラム、特にイランにとって、アメリカは大きいサタン、イスラエルは小さいサタンなのです。

続けて記事に書かれているのは、これは、初めてでない事、アッヤトラー・ハメネイ（イラン最高指導者）は過去に、イスラエルを「癌」と呼び、さらに、テルアビブとハイファを絶滅させると脅迫しました。彼のこの発言の1か月前には、イラン軍の上級司令官が予測しました。「今後10年以内に、パレスチナのアラブ人が、イスラエルを追い出すだろう。」現在の状況を考えると、これでも結構長いように感じますが。

では、まとめに入ります。今日私が紹介した4つの記事には、共通項があります。それは何かとさえ、もうそれは、時間の問題であって、避けられないところまで来ているという事。そして、私達は聖書のある預言から、その事を知っています。いくつもありますが、今日はその中の3つを紹介します。新約聖書より1つ、旧約聖書より2つです。

1つ目は、第一テサロニケ5：3、パウロがテサロニケの教会に宛てて書いています。この節は、皆さんもよくご存知でしょう。とても重要な預言です。何を書かれているか、よく聞いてください。

“人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、——”

私は35年以上、主と共に歩んできました。また私は長年、聖書預言を学ぶ者であり、教師でもあります。そして私は、1980年代から、これをずっと見てきました。さかのぼる事1980年代からです。しかし、こんなのは、これまで見た事がありません。ニュースを見て、またテレビの報道や新聞を読んで、まさに、この2語を聞かない時はありません。また、ギリシャ語で「安心」というのは、「アスファリア」これはまた、「安全」とも訳されます。パウロが、ここで言っているのは、「誰もが『平和だ、安心だ。』という時代が来る。』『平和だ。安心だ。』次に、彼らがそんな事を言っているそのような時に、何が起こるかと言えば、

“——突如として滅びが、**彼ら**に襲いかかります。”

突然起こります。ここに、「私たち」と「彼ら」という描写があって、

“生き残っている**私たちが**、たちまち彼らと一緒に雲の中に一挙に引き上げられ、——”

(第一テサロニケ4:17)

“—— (**彼らは**) それをのがれることは決してできません。” (第一テサロニケ5:3)

私たちはのがれます。

“——突如として滅びが**彼らに**襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、**(彼らは)** それをのがれることは決してできません。” (第一テサロニケ 5:3)

ここでパウロは、彼の前に救世主がしたのと同じ例えを用いました。妊婦の産みの苦しみです。つまり『陣痛』。頻度と痛みが、どんどん増します。キリストが、その教会を携挙しに来られる時を、妊婦の産みの苦しみになぞらえています。

皆さんに言いたいのは、あの輪ゴムは、今にも切れそうで、それは突然起こります。突如起こるので、みんなが「平和だ。安全だ。」と言っていますから。以前にもありましたが、今はそれ以上です。そして、突如の滅びが襲ってきます。それは、時間の問題です。

次に引用したい聖句は、イザヤ 17 章 1 節。皆さんの大半が良くご存知の箇所、シリア、ダマスカスの破滅に関する預言です。この預言は、次の通りなのですが、少し分かりやすいように言いかえてみます。シリアのダマスカスは廃墟になり、人が住めない程に破滅する。ここで疑問は、それはイスラエルによってもたらされるのか？それとも、他の方法で？何によって、シリアに完全破滅がもたらされるのか？シリアには、ロシアが居り、ヒズボラを介してイランが居ます。そして、ネタニヤフはシリアに入っているプーチンに言います。「そんな事を考えてもいけない。そのレッドラインを超えると…」ロシアは、ゴラン高原の国境に居るのです。私達と一緒にイスラエルに行った皆さんは、そこを訪れましたね。だから、「そんな事を考えてもいけない。」イスラエルを軽く見てはいけませんよ。もしかしたら、イザヤ 17 章は、イスラエルにとって、何らかの攻撃をしかけるきっかけとなるのかもしれませんが。それによって、ダマスカスが完全に崩壊するのかも知れない。イスラエルの諜報によって、私達に知らされているのは、ダマスカスの地下には、大量破壊兵器があるという事。これで、人が住めなくなるというの、説明がつかいませんか？もう時間の問題です。時間の問題。

最後の一つも、全文は読まずに簡単に説明します。こちら皆さんが良くご存知の、エゼキエル 38 章。これは、ロシア、シリア、イラン率いる連合国に関する預言で、リビアも含まれます。それでも、ロシアとイランが攻撃を指揮し、それも核攻撃になると言われています。だから、私個人的には、イランとの核協議は、聖書預言成就の始まりだったと思っています。彼らは核攻撃をしかけます。失敗しますが。「あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。」と、イザヤはイスラエルに言いました。(イザヤ書 54:17) 神が介入されるのです。ここで、主が言われている事が私は大好きです。

“彼らは、わたしが主であることを知ろう。” (エゼキエル 38:23)

「彼らの神である！」と。私は、神がご自身を誇る時が大好きです。「天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造した。」と神が言われるところが大好きです。そして、神は言うのです。「わたしは、この民、ユダヤ人と契約を結んだ。」「わたしの御名を、文字通りエルサレムの上に置いたのだ。あなた方が分断しようとしている、エルサレムに。」「だから、わたしに刃向か

いたいなら、かかって来なさい。」「さあ、やりなさい。」

繰り返しますが、現在私たちが目にしている状況、現在起こっている事は、最初にお見せした輪ゴムの描写同様に、もう切れる寸前、あとは時間の問題です。

最後に、質問をして終わりたいと思います。

輪ゴムが切れた“時”、“もしも”ではなく、“時”です。皆さん、不意を突かれますか？あなたにとっては、驚きでしょうか？同じ質問を、言い方を変えて聞いてみます。主は、夜の盗人のように来られます。そのようにして、主が来られた時に、あなたは、自分には用意が出来ていると、はっきり言えますか？絶対的に確信していますか？もし、少しでも疑いがあるなら、もしくは自信がないなら、あなたの人生において、最も重要な、永遠のいのちの為の決断を、どうか今日行ってください。

その方法を説明します。どのようにして救われるのか。どのようにして、主に立ち返るのか。そして、備えをするのか。それは、子供にでも分かるほどシンプルです。福音とは、とてもシンプルなのです。今日のガラテヤ人への手紙の学びの中でも見てきましたが、そこに、私達が出来ることなど一つもありません。全て、すでに成されているのです。つい先日考えていたのですが、イスラムではパラダイスに入るため、自分の息子をジハード（聖戦）で死なせます。キリスト教では、それは逆で、神がひとりごを死ぬために送られました。そのおかげで、私たちが天国に入れるのです。主がなされるのです。私たちではありません。イスラムは、人間が神に届こうとしますが、キリスト教は、神が人を救うために人となられた。完全なる神が、完全なる人としてここに来られ、あの十字架で、代価を全額支払ってくださった。主が、あの木にかかって、全ての呪いを受けてくださったのです。それが福音、それが私たちが今話していた良い知らせです。

悪い知らせをご存知ですか？悪い知らせとは、あなたは死に向かっているのです。罪から来る報酬は死です。私たちは皆、神の律法を犯しました。私たちは皆、罪を犯しました。私たちは皆、罪人として生まれたのです。だから、神の御国に入る為には、私たちは、霊的に新しく生まれなければならないのです。ヨハネ3章で、イエスがそう言われました。では、どうすれば良いのか？



A= 『Acknowledge : 認識する』、『Admit : 認める』

あなたが、聖であり、義である神に対して罪を犯したと、認識し、認めるのです。ローマ3章にはこうあります。

“「義人はいない。ひとりもない。」”

(ローマ3:10)

救う方もお一人、イエス・キリストだけが唯一、律

法を全うする事が出来るお方です。しみも、しわもない、完璧なお方は、主お一人で、主はそれを成就されました。ローマ書にはこうあります。

“すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができません”(ローマ3:23)

“罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。”（ローマ6:23）

皆さん、お分かりですか？一つの聖句の中に、良い知らせと悪い知らせが一緒になって、入っているのです。悪い知らせは「罪から来る報酬は死」、良い知らせは「神の下さる賜物は永遠のいのち」。それが、ここに書かれているのです。一節の中に、きれいに梱包されている。これが福音であり、真理です。そして、あなたがそれを認識し、認めた時、神の御前に進み出て、神に降伏して言うのです。「神様、私は罪を犯しました。」「私は、罪から離れます。」「自分の罪を告白します。」「そして、心で信じます。」

### それが B=『Believe : 信じる』

心で信じる。アブラハムは、義人と呼ばれます。それは、彼が信じたからです。彼は、信じたのです。ちなみにそれは、「ああ、私も信じてるよ。」というのとは、違います。聖書には、悪霊でさえも信じていて、震え上がると書かれています。これは、「ああ、私は信者だよ。」というのとは違います。これもサタンのですが、もう一つサタンの話を聞きました。アメリカ人の80%以上の人々が、善人なら天国へ行けると“信じている”と言います。なんとこの事でしょうか。人々が必要とした時、使徒パウロはどこに居ましたか？たくさんの善人が地獄に行っています。そして、たくさんの極悪人が天国に居ます。私は、その列の一番前に居ます。皆さんも、私のずっと後ろに並びますよ。行いは、天国に入る為の基準ではないのです。イザヤは、「私たちの義はみな、不潔な着物のようです。」と書いています（イザヤ書64:6）。ところで、この不潔な着物について、皆さんぜひ原語で調べてみてください。かなりすごい表現がされていますから。死を象徴しているのです。それも、妊娠中期の赤ん坊の死。これが「不潔な着物」です。それが、神の目に映る私たちの自分の義。象徴的に、どれほど不潔か。しかし、神の下さる賜物は、主が、主の義を私たちに下さるのです。私たちは、神の義のパラシュートをまとおうのです。そうして私たちは救われるのです。だから私たちは、滅びません。ローマ10:9-10にはこうあります。

“あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ10:9）

一つ言わせてください。ずっと教会に行っている方、皆さんが若かった時に良く歌ったこの曲を覚えていらっしゃいますか？

♪もし、あなたが救われているなら、あなたの生活に、それが現れます。そこに実がある。♪  
聖霊の実（複数形）と言えば、それが証拠です。実です。あなた方は、実によって見分けるのです。パイヤの木に、リンゴはなりません。もし、そんな木があったら教えてください。面白いドキュメントが出来ますよ。それが、リンゴの木だと分かるのは、リンゴがなっているからです。彼らがクリスチャンだと分かるのは、彼らの生き方に、実が見られるからです。そうして見分けるのです。それが『信じる』という事。

そして最後の C=『Call : 呼ぶ』、『Confess : 告白する』

主の御名を呼び求める。

“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”（ローマ 10:9）

理由はこれです。

“人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。（ローマ 10 : 10）

先ほど話した“義”が出てきました。つまり聖書が告げているのはこういう事です。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」”（ローマ 10 : 13）

皆さんが言うべき事は、これです。主の御名を呼び求めるのです。魔法の言葉も、祈りもありません。

「罪人の祈り」と言われるものがありますが、何を言うかは大事ではないのです。ただ言葉を決められた通りに並べるのではなく、主の御名を求める時は、ただ単に主の御前に行くのです。そして言うのです。

「私は罪人です。」「私は、私の罪が全て許された事を、あなたに信頼します。私に、あなたの義をまともせてください。私をお救い下さい。」

これが、「信じる」事の基本です。「私は信じます」の。これが、私が義と認められる為にするべき事です。キリストによって清められるのです。

私は根拠のない事は言いません。私が牧らせていただいている、この美しい教会に今日来られた方の中で、これまでに、一度も主の御名を呼び求めた事の無い方が居るなら、どうか今日、主の御名を呼び求めてください。もしかしたら、何度も聞いてきた福音に、今日、初めて納得できたのかも知れません。今日、ようやく繋がったのかもしれない。もしかしたら、あなたにとって、もう一步踏み込んで、この輪ゴムが良かったのかも知れません。もしかしたら、この輪ゴムがあなたの人生を表していたのかも知れません。伸びきって、もう切れるしかない。見てください。輪ゴムを引っ張っている手を緩めると、全ての圧力が軽減されます。全てのストレスが取り去られて、もう切れる心配はいらない。こちらに来なければならない人が居るでしょう。ヤコブは言いました。

“神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。”（ヤコブ 4:8）

もしかしたら、あなたの結婚生活が、この輪ゴムのようなのかも知れません。経済が、この輪ゴムのようなのかも知れません。あなたの世界です。世で起こっている事は、忘れなさい。自分の世界がどうなっているのか、自分の世界で何が起こっているのか。もしくは、あなたは、主の元に戻る必要があるのかも知れません。今日、もう一度、宣言しませんか？「主よ、あなたの所に戻ります。」「主よ、私にはあなたがが必要です。」「本当にあなたが必要なのです。」「いつも、どんな時でも、あなたがが必要です。」



今朝、礼拝の前の祈禱会で、この曲を歌いました。これは、私の大好きな讃美歌の一つで、歌詞は、こんな風に続きます。

“主よ。あなたの思うままに。あなたの思うままに。あなたは陶器師、私は土です。私は静まり、あなたに降伏しますから、あなたの御心通りに、私をかたどり、お造り下さい。”

あなたも今日、静まり、主に降伏しませんか？

祈りましょう。

天のお父様。本当にありがとうございます。私たちはすべての事が、崩壊していくのを見ましたが、これは、あなたがそうなると言われた通りに、全ての物事が、しかるべきところに収まりつつあるという事で、あなたに感謝します。主よ、ありがとうございます。あなたは、事が起こる前に、何が起こるかを告げられました。それが起こった時に、私たちが信じる為です。そして、信者たちは、体をまっすぐにし、頭を上げて天を見ます。私たちの贖いが近づいていますから。主よ、今日ここに居る人の中で、これまでに一度もあなたの御名を呼び求めた事の無い人が、今日、あなたに信頼を置き、あなたの御名を呼び求めて、救われますように。イエスの御名によって、アーメン。

---

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい